

ハレバレモンスターSTORY

第1章

第7話 みんなの色

ハレバレタウンの一角にあるカフェ「4U」

『というわけで、満場一致でニックんの参加が決定しましたー！それでは一言』

「えっと、その、とりあえず参加することになりました、よろしく」

「ニックも巻き込まれた口だろ？」

「御愁傷様」

『ちょっと男子ー、人間きの悪いこと言わないでくださーい』

「その割にちゃっかりみんな参加してるくせに～」

「ごめんね、騒がしいと思うけどみんなニックくんが参加してくれて嬉しいんだと思う」

「で、結局何するのか全然わかってないんだけど」

『そこはハルネから』

「えっと～毎年8月ラストに夏祭りあるじゃん？そこの打ち上げ花火ってアタシ子供の頃から好きでさ。いろんな色でいろんな形で、ユニークなのも多かったからちょっと前に調べたんだよね。そしたらあの打ち上げ花火って一般の人が作ってて申し込んだらそれを打ち上げてくれるんだって」

『で、せっかくならみんなで作って打ち上げてみようってこと』

「しかも！夏休みの自由研究の共同研究ってことにしちゃお～って」

「それアリなの？」

「大丈夫、昨日俺が先生に許可取っといたぜ」

「花火打ち上げの申請書は昨日アタシとリィで提出済み～」

「準備いいね」

『ってことで今日はどんな花火打ち上げるか決めて、必要な材料集めたり、当日までにどうするかってことみんなで決めよう！』

「デザインはこれで決定でいい？」

「異論なし」

「いいんじゃないか」

『めっちゃいいじゃん！ニックんはどう？』

「どうって言われても・・・それがシンボルっていうならいいんじゃない。ただ花火として打ち上げた時の色味とかは・・・そうだな、このままじゃ地味だから、みんなの好きな色とか、それこそシンボルカラー的なものを決めて織り交ぜてみたらいいんじゃないかな？」

「それは確かにいいアイデアだな」

「ニック天才じゃね〜？」

「好きな色だと被るかもしれないし、シンボルカラー決めてみようぜ」

「シンボルカラーってアイドルみたいでなんか恥ずかしい」

『はーい！私オレンジ！』

「あっ！じゃあアタシは黄色！」

「早い者勝ちみたいになってんじゃない」

「はあ。悪い、ホミさんメモっといってもらっていい？」

「ふふっいいよ。ついでに私のも書いところ」

「意外とちゃっかりしてるね」

こうしてリィさんがオレンジ、ハルネさんが黄色、ホミさんが緑

ヒタチくんが赤、テツくんがシルバー、ボクが水色。

果たして夜空に打ち上げた時、ちゃんと見えるのかもわからないけど、とりあえずはさしたる取り合いもなく決まった。

その後もそれぞれが集めるものや決めてくることなど着々と夏祭りの打ち上げ花火に向けて準備が進んでいく。

過ぎて行く日々が、何かにつけて会う口実を作られて会う毎日が、楽しかった。楽しいと思ってしまった。

「じゃあ今日はこの辺にしようぜ」「OK」

「また明日ね〜」「バイバイ」

『また明日』

「うん。それじゃ」